

もくぞうあみだによらいざぞう
「木造阿弥陀如来坐像」

町指定有形文化財（彫刻）

所在地：大字中之条 777 所有者：西念寺 指定：昭和 55 年 10 月 15 日

この像は檜材一木造りで、螺髪は彫出しで、白毫は水晶、肉身は漆箔を施しています。上品下生の阿弥陀如来で、螺髪は中位でよく整い、肩から腕へかけ、その線も弱いところがなく、衲衣及び膝上にかかる衣文は流れるように見事で、膝上にかかる薄物の裳を通して肉躰が感じられます。頭躰ともに奥行もあって、小像ですが均整のとれた安定した形態をとります。鎌倉時代にさかのぼる制作と考えられます。

本像は、もと西念寺の末寺一行寺の本尊でしたが、一行寺の廃寺の際、本寺に納まり客仏となったものです。台座の裏に「春日御作、信州羽科郡中条村一行寺中尊、専誉春南、後建立延宝六年戊午年五月吉日」と修理墨書銘があります。台座・輪光背ともに後補です。

法量 像高 43.0 cm

頂～顎 15.0 cm

髪際～顎 8.5 cm

面幅 8.1 cm

面奥 11.3 cm

肩張り 21.5 cm

胸厚 11.3 cm

膝張り 37.0 cm

坐奥 23.5 cm

膝高 7.2 cm

